2024年度業務実績報告書

提出日　2025年　1月　26日

1．職名・氏名　教授　徳前　元信

2．学位　商学修士　授与機関　明治大学　授与年月　1987年3月

3．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
会計学Ⅰ（2単位　前期　毎年開講）　2年生

② 内容・ねらい
企業の利益計算の仕組みを理解するとともに、会計情報開示の社会的経済的役割を学ぶ
現代会計の基本的な考え、計算方法を理解させる。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
単なる会計制度の解説に終始せず、それを設けられた根拠や背景を解説し、現実の企業の会計行動の新聞記事を配布し、解説することにより、理解や興味が深まるように工夫した。その際に、大企業だけではなく、地元企業（三谷商事など）の財務諸表の会計数値や財務方針も紹介している。自作のプリントを毎回配布した。また、毎回、GC を活用して、小テストにて出席を確認するとともに、学習理解の確認テストを行い、毎回、コメントを返している。学生の質問にも答える時間を設けた。パワーポイントのスライドを書画カメラで写し、手書きのメモをスクリーンに投影することで学生の視覚効果を高める様に工夫した。学生の学習意欲を高めるため、1 限に設定している。コロナ・インフルだけではなく、大雨や就職活動など学生の公欠ややむを得ない欠席に対応するため、講義を録画しオンデマンド配信した。

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
会計学Ⅱ（2単位　後期　毎年開講）　2年生

② 内容・ねらい
企業の利益計算の仕組みを理解するとともに、会計情報開示の役割を学ぶ
金融商品の会計、リース会計、減損会計など特殊な会計の事例を概説した。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
単なる規則の解説ではなく、それを設けられた根拠や背景を解説し、現実の企業の会計行動の新聞記事を配布し、解説することにより、理解や興味が深まるように工夫した。自作のプリントを毎回配布した(pdf でも配信している)。毎回、GC を活用して、小テストにて出席を確認するとともに、学習理解の確認テストを行い、毎回、コメントを返している。学生の質問にも答える時間を設けた。パワーポイントのスライドを書画カメラで写し、手書きのメモをスクリーンに投影することで学生の視覚効果を高める様に工夫した。 学生の学習意欲を高めるため、1 限に設定している。コロナ・インフルだけではなく、大雨や就職活動など学生の公欠ややむを得ない欠席に対応するため、講義を録画しオンデマンド配信した。最近の企業状況、簿記・会計の資格や検定とを鑑み、「連結財務諸表」を講義内容に加えている。
学生の学習意欲を高めるため、1 限に設定している。パワーポイントのスライドを書画カメラで写し、手書きのメモをスクリーンに投影することで学生の視覚効果を高める様に工夫した。
学生に現実感を持って学ばせるため、金沢国税局から福井税務署長、福井財務事務所から所長の専門家二人をゲストスピーカーに招き、リレー講義を開催した。この模様は福井新聞および県民福井に取材され掲載された。

【ゲストスピーカー2人】

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
現代会計学演習Ⅰ　（4単位　毎年開講）　3年生

② 内容・ねらい
現代の社会や経済における会計の仕組み・役割を考える。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　会計計算とともに、企業行動をも取り入れ、現実の企業・組織の生態を観察するとともに、それを会計理論や経営理論の面から跡付けた。会計を、企業や組織、そして社会を見る眼として養った。また、経営や経済に関する新聞などのニュース記事を取り入れることにより、実務と理論がつながるように努めた。また、会計と不可分な企業戦略や経営理論の涵養に努めた。学生のキャリアを考えさせる一環として、簡単な企業研究も実施させた。企業の博物館を見学するなど現実感のある学習に勤めた。あわせてプレゼン能力の向上に務めた。
【フィールドワーク　3件】

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
現代会計学演習Ⅱ　（4単位　毎年開講）　4年生

②　内容・ねらい
現代の社会や経済における会計の仕組み・役割を考える。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　会計計算とともに、企業行動をも取り入れ、現実の企業・組織の生態を観察するとともに、それを会計理論や経営理論の面から跡付けた。会計を、企業や組織、そして社会を見る眼として養った。また、経営や経済に関する新聞などのニュース記事を取り入れることにより、実務と理論がつながるように努めた。経済学部での集大成として、卒業論文を全員に書かせ、ゼミ生の成長につなげた。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
　会計学特論　（大学院　2単位）

②内容・ねらい
　会計学を素材として、社会人大学院のための思考実験を行った。会計基準の設定の基礎理論と経済的帰結を考えた。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　単なる制度・理論の解説にとどまらず、そこに潜んでいる基本思考の転換を視点に企業価値を向上させることを考えさせた。また現実企業の数字を用いて実態を分析し、異なるバックボーンを有する社会人同士で議論させることで、ものの見方や考え方を深めることができた。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
会計学特論　（大学院　2単位）

②内容・ねらい
会計学を素材として、社会人大学院のための思考実験を行った。会計基準の設定の基礎理論と経済的帰結を考えた。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　単なる制度・理論の解説にとどまらず、そこに潜んでいる基本思考の転換を視点に企業価値を向上させることを考えさせた。また現実企業の数字を用いて実態を分析し、異なるバックボーンを有する社会人同士で議論させることで、ものの見方や考え方を深めることができた。社会人院生に加え、社会人聴講生、そして海外からの交換留学生の多様で幅広い履修があった。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
　ふくい企業価値共創ラボ　（大学地域貢献事業）　12月6日

②　内容・ねらい
会計学を素材として、社会人大学院のための思考実験を行った。経営指標をめぐる会計行動と管理のあり方を講義した。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　単なる制度・理論の解説にとどまらず、そこに潜んでいる基本思考の転換を視点に企業価値を向上させることを考えさせた。また現実企業の数字を用いて実態を分析し、異なるバックボーンを有する社会人同士で議論させることで、ものの見方や考え方を深めることができた。社会人院生に加え、社会人聴講生、そして海外からの交換留学生の多様で幅広い履修があった。

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
経営学総論Ⅱ（学部　2 単位）のうちの 1 コマ

② 内容・ねらい
会計学を素材として、会計の役割、機能、会計に対する責任など基礎を講義した。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
会計の概要、会計学を学ぶ意義を初心者に講義するため、PPT と印刷資料の配付、そして GC による小テストを行った。

(2)非常勤講師担当科目

(3)その他の教育活動

公認会計士や税理士、簿記検定などの受験者の質問に答えた。
また、境准教授が担当する「経営分析論」にて福井県信用保証協会から本学出身の OB・OG3 人を招き、信用保証業務の概要、創業へのポイントなどをゲストスピーカーとして話してもらう特別講義の企画や運営を補助した。

４．研究業績

(1)研究業績の公表

①著書

④ 学会報告

○l'Association française de comptabilité（AFC）　45e congrès annuel à Dijon（2024）フランス語圏会計学会　第 45 回ディジョン大会 2024 年にて
French Accounting from Japanese Perspective:Common Experiences, Particularity, and Historicity を報告（単独）。

○包括球学術集会 Global Accounting Association　経営戦略会計研究
福井県立大学　2024 年 12 月 21 日　福井市地域交流プラザ　アオッサ会議室
「現金を生み出す力としての CCC」を報告

⑤ その他の公表実績

(2)学会活動等

学会でのコメンテーター、司会活動
○会計理論学会　第 39 回全国大会（2023 年 9 月 19 日　九州大学）
自由論題報告 2 本の司会

学会での役職など
地域公共政策学会監事
包括球学術学会副理事長 2017 年より
会計理論学会理事（2010 年より 2016 年　2019 年より）など

(3)研究会活動等

① その他の研究活動参加
（財）産業経理協会調査研究委員・同経営戦略会計研究会、
会計理論学会（立命館大学）、関東会計研究会、会計フロンティア研究会
など

② その活動による成果
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
研究分担者 : 基盤研究（C)「現代資本主義における経済倫理と経営倫理」（廣瀬弘毅代表）　令和 7 年度申請 令和６年度　助成申請書〔個人研究推進支援（海外学会発表支援)〕学内にて交付を受けた

５．地域・社会貢献

(1)学外団体
① 国・地方公共団体等の委員会・審議会 福井県信用保証協会外部評価委員（委員長）2012 年より 福井県信用保証協会理事者選考委員会（委員長）2017 年より
② 国・地方公共団体等の調査受託等
③（公益性の強い）NPO･NGO 法人への参加 （財）産業経理協会調査研究委員
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 福井県信用保証協会とのコラボ講義を企画した
⑥その他
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講 〇大学院経済・経営学研究科　短期ビジネス講座 2023 年を企画運営 テーマ「地元のビジネス講座で学び直ししませんか。」 11 月 2 日（土)、9 日（土)、11 月 30 日（土)、12 月 7 日（土） 社会人の幹部候補生を対象に対面の開催。学内外の 6 名の講師。データサイエンス、仮説検証、経済安全保障、非営利ビジネス、組織コミュニケーション、会計数値を用いた管理会計などのテーマで開催。 なお、北陸電力、フクビ化学、など多くの社会人の参加を得た。　課題レポートを提出するなど一定の要件を満たす参加者には修了証を授与した。また参加者の意欲を高めるために、ランチミーティングも開催した。 など
② 社会人・高校生向けの講座 〇武生東高校にて、「経営学を学ぶ意義」を出前講義
③ その他
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等）

６．大学運営への参画

⑴役職（副学長、部局長、学科長）
⑵委員会・チーム活動
ハラスメント委員会委員長代理 短期ビジネス講座企画委員 経済学部　特別企画講座「税理士による租税講座」委員
⑶学内行事への参加
全学ミーティング、大学祭（白樫祭）
⑷その他、自発的活動など
茶道部顧問 コロナ危機を受けて休眠状態にあった茶道部を、学生と一緒に復活させ、大学祭でのお茶会、ワールドカフェとのコラボの茶道体験会など大きな成果を上げた。